

ほろ忌



大本山總持寺贈西堂
当山二十二世重興

前住職 朴洲剛毅大和尚の 一周忌が 行われました。



開山堂に祀られている朴洲剛毅大和尚の像

昨年の七月二日永眠いたしました当山の前住職、朴洲剛毅大和尚の一周忌法要が、七月二日、本寺である宇治興聖寺植本攝道老師を大導師にお迎えして、臨南寺本堂にて執り行われました。

大阪府内外から、六十名のぼる御寺院様にご参列たまり、出班焼香を修行していただきました。これは、前住職のお位牌に向かって一列に並び、それぞれお一人ずつ出て焼香していただくもので、最大の敬意を表すものです。早いものでご遷化より一年が過ぎました。心よりご冥福をお祈りいたします。

宇治興聖寺植本攝道老師によるご焼香



No.
15
2005 Summer

がん しょう ざん
含松山
臨南寺

臨南寺百景

弁財天の石碑



本堂に向かって左手に、今は使われていない山門があります。その山門の両側に石碑が建っています。一つが弁財天の碑で、横面に「市政編入記念」、裏面には「大正十四年春 二十世泰洲」「飛田遊郭 平井竹松」とあります。ちょうど八十年前の大正十四年（一九二五）、長居周辺が大阪市に編入されたとき、飛田遊郭の平井竹松さんが寄進したもので、当時の臨南寺は泰洲住職が勤めていたことが分かります。

もう一つの碑には「不許葷酒入門」、「葷酒、門に入るを許さず」とあります。「葷酒」とはおいの強い野菜や肉類、酒をさします。この碑の裏面には享保四年（一七二〇）とあり、二百八十五年前の石碑なのです。



ご先祖様に感謝と報告を

さる七月二日、前住職朴洲剛毅大和尚一周忌法要を本寺宇治興聖寺植本攝道老師を大導師にお迎えし、府内・府外から約六十名の御寺院様に参列いただきまして、親族・近親者にて修行いたしました。

時のたつのは早いもので、あれから一年が過ぎてしまいました。

亡き前住職のご霊前に、現在の臨南寺の状況、今後の課題や予定などをご報告申し上げ、いままでの発展・努力に感謝を申し上げ、心を込めて焼香させていただきました。

檀家様の法事を務める機会が多くありますが、そのときよく質問されるのは、

「何で法事をするのですか？ 何をお願ひすれば良いのですか？」

私は、このような質問には、次のように答えています。

「何かをお願いするのではなく、『お蔭様でみんな元気に生活しています、子どもも大きくなりました』



臨南寺 住職

大澤正道

と感謝を込めて報告すればいいのですよ」

先に亡くなった方に対して、感謝の気持ちで務めることが大事なのです。

皆様も、仏壇に手を合わせるときには、

「おはようございます。今日も良い日でありますように」「お休みなさい。今日も無事過ごせました」などと、ご先祖様に感謝いたしましょう。

お盆の時期が近づいてまいりました。ご先祖様のみ魂をお迎えし、ご供養（ご報告）をいたしましょう。

境内を灯りが埋め尽くす 弁天さま万灯会



八月十二日（火）の夕方から臨南寺の境内は、たくさん

の灯りに埋め尽くされます。みなさまの願いを込めた灯りがいくつも揺らめいて、境内

は幻想的な雰囲気になります。恒例の「弁天さま万灯会」の始まりです。

弁天さまは、知恵と財福と音楽の神様。当山の弁天様も、

合格祈願、芸能上達、商売繁盛に靈驗あらたかと伝えられています。

本堂前には、みなさまの願い事を書き入れていただけの

献灯を用意しております。ご先祖や亡き人へのご供養とともに、みなさまの願いをご祈

念させていただきます。どうぞお誘い合わせの上、お参り

ください。

法要は、午後六時四十分からと午後八時から執り行います。



お釈迦様ものがたり ⑧ 初めての尼僧はこうして誕生した



人間はすべて平等である

これまでお話しましたように、お釈迦様のもとには十大弟子をはじめ、たくさんのお弟子が集まってきました。当時のインドはカーストという非常に厳しい身分制度がありました。前回ご紹介したウパーリは下層階級で、ほかの弟子たちは一緒に食事をするのも嫌がりました。その時代にお釈迦様は「この世には実体がない。だから、人間は平等であり、一切の差別は生まれない」と弟子たちを諭しました。

しかも、お釈迦様は、犯罪人でも、犯した罪を悔いていれば、不問に付しました。九百九十九人もの首をはね、指を切り取った殺人鬼でも、自らの罪を完全に悔いた男には出家を許しました。

女性の出家を許さず

ところが、お釈迦様は、女性に対して厳しかったのです。父王が亡くなっ

た後、育て親の叔母が、妻とともにお釈迦様を追いかけてきて出家を願います。彼女たちは、長旅で足からは血を流し、体はほこりとあかまみれていました。それでも、お釈迦様は頑として出家を認めようとしません。

お釈迦様は弟子にこう漏らしています。「女は、怒りっぽく、嫉妬深い。おまけにけちで思慮が足りず、ひとり立ちできない。女がほしいのは、結局男で、夫と子供を独占することしか考えていない」

見かねた、弟子のアーナンダは、「人間はみな平等である」というお釈迦様の教えをたてに、とりなしを試みます。「すべての人が平等であるのなら、女性でも、四諦（よんたい）を見きわめ、八正道（はっしょうどう）を忠実に実践すれば、悟りにいたれるのではないのですか？」

決して女性蔑視からではなく

困ったお釈迦様は考え抜いた末に、

男性よりも戒律を厳しく設定することを条件に、女性が出家することを許しました。仏教において初めて、尼僧が誕生したのです。これをきっかけに、女性たちも争うように出家して、修行に励むようになりました。

お釈迦様は、決して女性蔑視からではなく、女性は厳しい修行に耐えられないのではないかと、そして、女性の存在が男性の修行を乱すことにならないか、その二つの危惧から女性の出家を認めなかったと考えられています。

お釈迦様は女性には、特に「渴愛」からの解脱を説いています。

「愛欲は、渴いた者が水を求めるように強く激しく切ない。理性も知恵も見識もすべて滅ぼしてしまおう。この割愛を消し去らない限り、心に平安が訪れることはない」

女性の信者も増え、成長する仏教集団の中で、乗っ取りをたくらむ者も出現します。次回はそのお話をいたしましょう。



□ 墓前回向

八月十日（水）
午前十時〜十二時
八月十二日（金）
午後七時〜九時



□ 弁天様万灯会

八月十二日（金）
午後六時〜九時
詳しいことは、右ページに紹介されています。

□ 盂蘭盆会施食会

八月十六日（火）
午前九時〜午後一時
受付は十二時半までをお願いします。

□ 秋期彼岸会施食会

九月二十六日（月）
午後一時〜三時
受付は二時半まで。

□ 本堂ご開扉

毎日、午前九時〜午後四時まで開けております。ご焼香の用意もしておりますので、どうぞお参りください。

本堂で心静かに合掌なさいませんか



津田 恒州

蝉の声やとどろく雷鳴 掌します。その瞬間、こ
とともに、雨粒が新緑の のひと時が大事です。

草木をうるおす雨季も過 照らし、香（線香）で心
ぎました。強い紫外線を 光明はあまねく世界を
まず頭頂部で受け止め、 を清め、浄水にて命をは
汗でまとわりつく着物の ぐくみ、命の輝き美しさ
不快さを感じる季節がや を表す花（華）、天地無限
ってきました。 の命を感謝する食物（菓・

そもそも手を合わせる 菜）。この五つの供養の精
ことは、手のしわとしわ 神で精進できる場が、仏壇、
を合わせて、しあわせを お墓、お寺での合掌へと
祈り、心のよりどころ安 つながるのです。

心を得る行為です。 祝日、休日には、多く
一日の始まりと終わりの お墓まいりの方をお見
を仏壇の前で合掌し、仏 かけします。どうぞこの
様を敬い、ご先祖様を供 機会に、本堂にて心静か
養します。お墓参りの前 に合掌を、切に願います。
と帰りに、本堂の前で合 合掌

お彼岸写経会

臨南寺では、九月二十日（火）～二十五日（日）
のお彼岸期間中、午前十時から午後四時まで
お写経をしていただけます。一文字書くたび
に仏様一体を刻むといわれる写経は、亡くな
られた方のご冥福を祈り、功德と浄福を授か
ります。

書き上げられたお写経はねんごろに回向さ
せていただきます。随時、受付しておりますの
で、お気軽にお申し付けください。

マトリ合同法要 「若葉祭」行われる

五月八日（日）午後一時から、がつしょう
園マトリの合同法要「若葉祭」が営まれました。
本堂で泉溪寺住職山本能人老師の法話を聞いた
後、マトリに入り、読経が続くなかで焼香
と祈りを捧げました。回を重ねるたびに参列
者も増えています。

がつしょう園マトリは、
お墓の継承者がいなくな
っても永代にわたって供
養してもらえ永代供養
墓です。清浄な雰囲気
に包まれたマトリは、入会
希望の方も増えております。



お気軽にどうぞ

早朝坐禅会

第一土曜日 午前六時三十分
* 二月・七月・八月は中止します。

写経会

毎月二十日 午前十時～午後四時
随時受付
写経料／二〇〇〇円

子ども空手教室

毎週木曜日 午後七時～九時
一カ月／六〇〇〇円

※いずれも事前のお申込みが必要です。



「ほ～っと」15号

平成17年7月

編集・発行：りんなんじ 榎林「ほ～っと」編集室

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-32

☎ 0120-711-493

TEL 06-6698-1001 FAX 06-6697-3330

Eメール：rinnanji@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ：http://www.rinnanji.com

編集後記

世界から戦争をなくすには、武器や軍隊をなくす
以外に道はありません。子どもでもわかることなのに、
日本は海外で武力を使えるようにしようとしています。
それで私たち日本人は世界の人から尊敬される
のでしょうか？ 今号の内容はいかがでしたか？
ご感想をお寄せください。採用分には記念品を送
らせていただきます。Faxでも結構です。